

沖縄からの報告

辺野古新基地建設 非暴力・不服従の闘い

場所／イーブルなごや 視聴覚室
時間／午後2時～4時

2026
9.22 Tue
西浦昭英さん



東京都内の中学校・高等学校で数学教師を務める。退職後の2019年、名護市に移住。現在、辺野古新基地建設反対運動に取り組みつつ、平和ガイドや『千葉さんの裁判を支える会』の事務局を務めている。

1996年の日米特別行動委員会(SACO)で普天間基地を「全面返還」と辺野古新基地建設を日米両政府が「合意」してから30年。辺野古の基地建設は進み、さらに沖縄の島々には、「中国脅威」を口実に自衛隊の基地増強、ミサイル配備が強行され、沖縄を再び戦場にする動きが強まっています。しかし、米国防総省文書によって「2800m級の緊急時滑走路が提供されない限り、辺野古新基地が完成しても普天間は返還しない」ことが明らかになり、「辺野古が唯一」は破綻しています。安和での死傷事故で、沖縄県警が被害女性を重過失致死の疑いで那覇地検に書類送検するなど、政府は反対運動の抑え込みを強めています。辺野古ゲート前行動や「千葉さん裁判を支える会」などで活動する西浦昭英さんを招いて、基地を止める運動の今をお話していただきます。ぜひご参加ください。

主催: あいち沖縄会議

参加費: 800円

(構成団体)

命どう宝あいち、不戦へのネットワーク、東海民衆センター、名古屋YWCA、

日本聖公会中部教区沖縄プロジェクト JUCON(沖縄のための日米市民ネットワーク)